北米日本研究図書館の現状と課題:視聴覚資料へのアプローチ

マクヴェイ山田久仁子*

はじめまして。ハーバード・イェンチン図書 館の日本語資料担当ライブラリアンのマクヴェ イ山田久仁子と申します。現職に就いて16年余 になります。また、現在 NCC (North American Coordinating Council on Japanese Library Resources 北米日本研究資料調整協議会)の議長 として任期の最後の3年目を勤めています。 NCC は北米の大学図書館員と日本研究者で構成 する、研究資料へのアクセスの量と質を高める ことを推進するグループです。名称にもありま すように、リソースを単独で構築するのではな く、それぞれの図書館の資料をお互いに共有で きるかたちで、北米全体の資料の巾と深みを増 して行こうと、日々努力しております。 NCC の具体的活動に興味のある方は、ウェブサイト をご覧下さい。

http://guides.nccjapan.org/homepage (現在のサイトはちょうど刷新中で来年1月早々に、最新情報を盛り込んだサイトがみられることになっています。)

みなさまは主に美術館及び美術史のバックグ ラウンドの方が多いと思いますので、まず簡単 に北米の大学図書館の役割と日本美術研究も含 む日本研究をどのように支援しているかをお話 したいと思います。米国の大学で行われる日本 美術の研究の場合、一次資料であるオリジナル の美術品を美術館で収蔵していることもありま す。図書館は主に研究成果である二次資料と一 次資料の複製を提供するのが本来の役割です。 その文脈の中で、美術、工芸、デザイン、建築、 都市計画、映像等を含む広義の視聴覚資料が日 本研究でどのように利用され、研究されている かを実例も含めて、ご紹介したいと思います。 こうした北米の特にハーバードの例から導かれ た考察に基づき、その際に直面する問題点とと もにこれからの展望を述べ、若干の希望をのべ させていただきたく思います。北米の美術資料 環境と研究の状況をここで皆様と共有すること により、日本の美術館が世界の研究者を支援す るための参考となりましたら、幸いです。

さて、データがやや古くて恐縮ですが、直近の 2012 年の国際交流基金のサーベイ 1 によりますと、米国では全大学 2,774 校中 361 大学で学

部生レベルの日本専攻プログラムがあるそうです。日本に関する授業の数は 2,786 にのぼるとの事。こうした日本研究を支えている大学図書館のうち、日本語資料を所蔵しているのは 67大学、そのうち蔵書が 4万冊以上は 31 図書館です。

ハーバード・イェンチン図書館の日本語コレ クションは、その中ではカリフォルニア大学バ ークレー校に次いで蔵書数が多く、現在人文学 と社会科学の主題の約35万冊の図書及び、 1,000 タイトル余の雑誌を所蔵しています。同 じくハーバードの芸術専門図書館(Fine Arts Library) に属するルベル東アジア美術図書館の 日本語資料には、11月現在4,755タイトルの図 書、88 タイトルの雑誌、33 点の複製絵巻等があ りますし、英語の日本美術資料は2,218タイト ルの図書、34 タイトルの雑誌を所蔵しています。 ですので、私自身はアート・ヒストリー研究者 のための主題を掘り下げた蔵書を構築する責務 はありません。他の米国の大学図書館では芸術 図書館が東アジア言語のコレクションを所蔵し ているケースは少ないようで、日本語資料担当 者がアートも含めた全分野を担当しているケー スがほとんどです。北米の多くの日本研究ライ ブラリアンは、今年の研修生であるオレゴン大 学のケビン・マクドウェルさんも含めて、美術 研究資料の収集も担当し、日本美術史の研究者 や学生ヘサービスを提供しています。

米国の大学図書館の使命は、所属する大学の 教育と研究を支援するという事で従来から一貫 していますが、研究手法や研究対象は他の学問 領域同様日本研究でも常に動いています。特に 電子媒体のインパクトは非常に大きく、教育の 場でも、研究の場でも変化が加速度的に進んで います。紙の印刷媒体が主体だった図書館が急 速に新しい媒体を受容しながら、それらを積極 的にサービスに取り入れることは必須になって いますので、私どもライブライアンもその為の トレーニングと研鑽が欠かせません。その意味 でも、今回のジャパンアートライブラリアンの 研修プログラムは大変時宜を得たものと期待し ています。また絵巻や絵本等視覚情報が伝統的 に豊富な日本の表象文化は、 宗教、文学、人類 学など美術史以外の学問領域からも活発に研究

* マクヴェイ やまだ くにこ (北米日本研究図書館資料調整協議会長・ハーバード・イェンチン図書館司書) 1. *Japanese Studies in the United States: The View from 2012.* The Japan Foundation, 2013. http://japandirectory.socialsciences.hawaii.edu/Assets/Volumes/2013%20monograph%20final.pdf

されています。また、 Arts (複数形のアート) の概念もどんどん拡がり、写真芸術、建築、デザイン、映像、舞踏なども含まれ、研究対象が2次元と3次元に拡がっています。

芸術研究対象の急速な変化を物語る一例として、米国議会図書館(Library of Congress)の分類と現在のアートのずれがあります。大項目 Fine Arts は視覚芸術、建築、彫刻、素描、デザイン、イラストレーション、絵画、印刷媒体、装飾芸術、芸術一般の各項目に分かれています。写真(Photography)はテクノロジーの中のひとつの項目で、さらにその中の「応用写真」に芸術的、商業的、医学的写真がひとくくりにされています。映像(Cinematography)、動画(Motion pictures)も写真の中の一項目です。ちなみに宮崎駿監督の「絵コンテ全集」はイラストレーションとして、アートに分類されているようです。

一方、Art History を美術史と訳してしまうことにも明らかに無理があります。アートという言葉には、日本語の美術が視覚的表現にほぼ限られるのに対し、広範囲の創造的表現や優れた技量なども含まれます。ここではアート・ヒストリーを訳さず使用したいと思います。

次に、北米を中心とした日本研究の博士及び修士論文について考察したいと思います。データは ProQuest Dissertation & Thesis Global (www.proquest.com/products-services/pqdtglobal.html)

から取りました。1890年から2015年に3,023の博士及び修士論文が書かれています。データ取得法のせいかもしれませんが1990-2000年の10年にその前の10年の約10倍に数が増えています。このうち659の論文の主題にArtsが含まれていますが、いわゆるアート・ヒストリーの論文は166点です。

さらに過去3年のアート・ヒストリー専攻生の論文の主題を見ていきますと、次のようなトピックが出てきます。アイヌ、写真、視覚文化、日蘭関係、物の文化、紙芝居、ベトナム戦争、アヴァン・ギャルド、横尾忠則、竹久夢二、夢窓疎石、禅、南蛮世界地図、地図学、天皇の肖像、森下泰昌、クイア(性的少数派)批評、万国博覧会、アニメーション映画、スナップ写真、木版画、写真雑誌「プロボーク」、満州、ユートピア、ディストピア、「白樺派」、「偽紫田舎源氏」、「法然絵巻」など。写真や動画を題

材にした論文が目に付きますが、先の議会図書館の産業技術中心の「写真」の概念からかなり 乖離しています。

ちなみに 1990 年代のトピックには写真がみられず、黄檗禅、豊臣秀吉の息子の霊廟がある竹生島、洛中洛外図、河鍋暁斎などの伝統的美術や、近代の実験的芸術誌「マヴォ」、村山知義、吉行エイスケ、モダニズムがトピックとなっています。

このアート・ヒストリーの論文もさらなる分類項目をみていきますと、論文の多い方から順に、歴史が55と全体の3分の1を占めています。次いでアジア文学が23、アジア研究が22、建築11、女性学9、文化人類学8、宗教史8、宗教学7、芸術教育6、比較文学4、そして美術4、劇場4、デザイン、映画、動画、アメリカ史、芸術批評が3と続き、ダンス、民俗学、室内デザイン、語学、芸能、近代史、哲学がそれぞれ2となっています。ひとくちにアート・ヒストリー研究といっても、これほど多様な学問領域が交差しています。

同様に、アジア学会のアジア研究論文索引 (Bibliography of Asian Studies,

http://bmc.lib.umich.edu/bas)の検索でも、日本アートが主題の論文が2010年代に155点、図書が12タイトル出版されています。ちなみにここにあげた例は文化人類学者によるヒップホップ音楽や伊勢神宮遷宮の儀式が研究対象となっています。日本アートを扱った研究の多くは、かなり学際(Interdisciplinary)になされているといってもいいかと思います。

ちょうど日本でこの夏刊行された、小学館の 「日本美術全集」第 19 巻 『拡張する戦後美術』 で、1945 (昭和20) 年から1995 (平成7) 年 の間に制作・発表された作品 200 点強を取り上 げていて、責任編集者の椹木野衣氏の巻頭「は じめに」に述べられている次の言葉は、私ども が大学で支援している美術研究の状況によく呼 応しているように思います。「現代美術や、印 刷および複製技術の進展と普及によって飛躍的 に流布した写真、デザインに加え、純粋な美術 としてとらえられてこなかったマンガや特撮美 術も、わが国ならではの戦後美術を代表する表 現として、進んで取り上げた」 村上隆の『シーブリーズ』『タイムボカン』、 岡本太郎の『森の掟』『重工業』『明日の神話』 『太陽の塔』、成田亨による怪獣デザイン画。

手塚治虫・酒井七馬による『新寳島』、水木し げる『墓場鬼太郎』、白土三平『カムイ伝』、 つげ義春『ねじ式』、藤子・F・不二雄『ドラ えもん』、ちばてつや・高森朝雄『あしたのジ ョー』、赤塚不二夫『天才バカボン』、永井豪 『デビルマン』、大友克洋『AKIRA』、宮崎駿 『風の谷のナウシカ』少女マンガでは中原淳一、 内藤ルネ、高橋真琴の作品や 『ベルサイユのば ら』。「雑誌の表紙」として『暮しの手帖』 『週刊少年マガジン』「アウトサイダー・アー ト」として貼絵の山下清、大本教の出口王仁三 郎、火山学者三松正夫、炭坑記録画を残した山 本作兵衛、奄美大島で生涯を全うした田中一村。 日本画家では横山操、東山魁夷、杉山寧、加山 又造、平山郁夫。 これらの椹木氏に選定された 作家と作品は今後の私ども研究図書館の選書に も、確実に反映されることでしょう。

また少々余談ですが、この夏ニューヨークの 近代美術館で公開された小野洋子の作品展²では、 詩、音楽、コンセプチュアル・アート、ヴィデ オ、インスタレーションとあらゆる媒体の作品 が展示されていました。従来の印刷された美術 全集では、到底こういったアートは収まりませ ん。後世の小野洋子研究者に美術館や図書館は 十分こたえられるでしょうか?

さて、この辺で私がハーバードで実際に接している研究者や学生の美術資料との関わり方の例を2,3ご紹介したいと思います。

現在博士課程で江戸時代の刷り物を研究している学生は、アート・ヒストリー専攻です。日本各地の名所の刷り物が研究対象で、くずし字で書かれた狂歌などのテキストを読み、諧謔に満ちた内容を理解することは研究に不可欠なので、英国のケンブリッジ大学の江戸文学専門グループとの勉強会に毎週スカイプで参加しているそうです。彼女の研究は、文学、地理、宗教と大きく交差しています。知識や資料の共有や、共同研究の実現に、時間と空間の制約が急速に少なくなっているのを実感します。

また、中世文学専攻のある大学院生は、 室町時代の御伽草子「弁慶物語」で修士論文を書こうとしています。底本となる岩波書店の『新日本古典文学大系』第55巻のテキストはダブリンのチェスター・ビーティ図書館の絵巻をもとにして、欠落部分を天理図書館と京都大学図書館

所蔵の、別系統の資料で補ったものです。2005 年に日本の研究者が、「弁慶物語」の諸本を調 査し、ハーバード美術館所蔵の絵巻が、チェス ター・ビーティー所蔵の絵巻を補完する物では ないかと、指摘した論文を発表しました。3それ を読んだこの学生は、ハーバード美術館にこの 絵巻の閲覧を申し込み、今週 11 月 24 日に調査 に行きました。ちょうど25日にボストンの空港 でこの発表のため成田行きの便を待っていまし たら、彼から電子メールで速報が送られてきま した。自分は日本美術のエキスパートではない が、と断りながらも「かなり確実に(Almost certainly) ハーバードの「弁慶物語絵巻」がチ ェスター・ビーティーの絵巻の欠落部分だと思 う。挿絵は少なくとも、チェスター・ビーティ 一版で欠落している部分に符合し、かなり特徴 ある弁慶の描き方を含めて絵のスタイルも同じ ように見える。これからテキストを読んで、チ ェスター・ビーティー版と比べる作業があるが、 実感としてこのふたつは、本来ひとつの作品だ ったとの思いが強くなった。)と書いてきまし

ハーバード美術館の絵巻が、チェスター・ビーティの絵巻の欠落部であることが正式に認定され、双方の美術館で絵巻をデジタル化して、バーチャルに繋いで公開して欲しいというのが、この学生の希望です。ちょうどチェスター・ビーティ図書館のメアリー・レッドファーンさんがこの会場にいらっしゃいますので、ぜひご検討くだされば、幸いです。そして、この完全版に基づいて『新日本古典文学大系』のテキストが再翻刻校閲されることを、このツーバード所蔵の絵巻のテキストの英訳を付ける予定だそうです。

このケースのように日本文学研究においても、 美術館所蔵の一次資料が研究対象になることは、 よくあります。1年前から導入されたハーバー ドのオンライン図書館資料検索ポータル、ホリ スプラス(Hollis Plus

http://hollis.harvard.edu/primo_library/libweb/action/search.do?vid=HVD) は、いわゆるディスカバリー・ツールとして大学内の73の図書館資料だけでなく、大学アーカイブ、美術館、博物館の資料情報もメタデータを通してかなり繋がるようになりました。ホリスプラスと、ハーバード美術館の検索システムの両方の結果を比

2. Yoko Ono: One Woman Show, 1960-1971. Museum of Modern Art, May 17-September 7, 2015. http://www.moma.org/calendar/exhibitions/1494?locale=en

3. 田代圭一. 『弁慶物語』諸本についての一考察--写本類を中心に. 書陵部紀要 / 宮内庁書陵部 編. (57) 2005 年度. 21~41.

較のために出しています。どちらもローマ字でbenkei monogatari とタイプしますと、ホリスでは、2件の無関係のものも含め7件の結果が提示されました。そのうち2件がハーバードの美術館所蔵で、1件がオリジナル絵巻で画像がありません。もう1件がチェスター・ビーティの絵巻の画像5枚のサムネイルが結果についてきました。美術館が権利を有する画像コレクションを検索し、アクセスできるようになったのは、大変便利です。これらの詳細な画像を見るには大学のID番号とパスワードを入力しなければなりません。この画像のコピーや出版、流通には所蔵者の許可を得るべきと注意がなされています。

一方、この画像無しのハーバード所蔵の絵巻の目録情報を美術館の検索システムで見つけされている電子メールアドレスに、絵巻を実際に見たいと、リクエストを出しました。約2週間後で見られることになったという次第です。ちょに、この方式はハーバード図書館所蔵の告記した。からは、見たい資料が図書館にあるかということよりも、それにをすることが第一の関心事であることをすれてきることが第一の関心事であることをすれてきることが第一の関心事であることですが、この視点は大事だと思います。

本来全く異なる知識体系で目録が取られていた図書館の資料と、美術館の資料が完全ではないけれど、メタデータの共有でディスカバリー・ツールを使って繋がりはじめたようです。 日本の美術館の資料のメタデータは研究図書館などと共有されているのでしょうか?まだでしたら、今後その方向に向かうことを心から願っています。

日本国外で所蔵されている美術資料の存在もかなり明らかになってきましたが、このケースのように、まだ意外な場所に重要な資料が埋もれている可能性も高いと思います。余談ですが、先週ブリティッシュライブラリーが、13点のデジタル化した奈良絵本を公開したというアナウンスありました。フランス国立図書館でも27点の奈良絵本をデジタル化しています。日本の研究機関でも奈良絵本は数多くデジタル化されていますが、海外のこうしたデジタル化された資料がより多くの研究者に知られ、活用されることを心から願っていますが、その為にもいわゆ

るグローバルなユニオンカタログの構築を待望 しています。ヨーロッパ所蔵資料の総合カタロ グとしての Europeana

(http://europeana.eu/portal/) では随分日本関係の資料がみつかるようになりましたが、美術館の所蔵品はどの程度はいっているのでしょうか?

米国のヴァージニア大学が後援する Rare Book School は西洋の古典籍の講義プログラム が充実していますが、江戸時代の絵本と、中国 の本の歴史の講義が数年前に創設されました。 おりしも江戸と明治期の絵本の1週間の集中講 義が 再来週12月7日から5日間、ハーバード のイェンチン図書館とハーバード美術館の資料 を使って開講されます。講師の Ellis Tinios 氏 は「日本の江戸期、明治期に出版された絵入木 版の本は、技術の完成度、幅広いスタイルと扱 う主題、そしてその美しさの点で、目をみはる べき達成だ。これに匹敵する芸術的に優れた絵 入り木版本を造る持続的な伝統は、中国でも西 洋でも見られない。」とこの集中講義の紹介文 の導入で述べています。4日本の木版絵本は美術 と文学の融合のひとつの達成と認識され始めた ようです。滝沢馬琴の文章を葛飾北斎の絵で楽 しんだわけですから、江戸の読書体験は大変豊 かだったと思われます。ボストン美術館、ニュ ーヨークパブリックライブラリー、ワシントン のフーリアギャラリーなどは有数の絵本コレク ションを所蔵していることで知られています。 Tinios氏のような認識がだんだん拡がって、こ れまでやや脇に置かれがちだった美術館所蔵の 日本の近世絵本が、整理され目録が採られ始め、 されにはデジタル化も進んできたのは、大いに 歓迎すべきことです。

私の居住するボストン地域は、岡倉天心が初 代の日本美術学芸員を勤めたボストン美術館も あり、エドワード・モースが日本で収集した多 彩な物がセーラムのピーボディ博物館に収めら れていたりと、米国のなかでも日本美術の質ェハ 量の集積が高いところです。天心の友人フロサやその弟子ラングドン・ワーナなどので バード卒業生がこうした収集に深く関わっていたこともあり、ハーバード美術館にも多くのを れた作品が所蔵されています。近世や中世の絵 をは美術館に大切に収蔵されていますが、とら とは美術館に大切に収蔵されていますが、とり が、とこともあり、そして江戸期の浮世絵版は とは美術館に大切に収蔵されていますが、とり に収められているようです。

4. I-90. The Art of the Book in Edo & Meiji Japan, 1615–1912. (http://rarebookschool.org/courses/illustration/i90/).

その多くが明治期に日本に観光に来てお土産 として買って帰ったもののようですので、日本 の図書館には所蔵が少なく、かえって海外に残 っている場合が多いかもしれません。早くは、 幕末明治の開港期の横浜絵、日本の民話などを 西洋言語に訳した縮緬絵本や、手で彩色された 写真などはその典型です。初期の写真家小川一 眞、日下部金兵衛などの作品も多く、彩色技術 も高いので海外では高い評価を受けています。 ハーバードでは、いくつかの図書館に分散する これらの写真アルバムをデジタル化し、詳細な 目録を作成しています。ご覧のようにホリス検 索では小川一眞の作品が278点所蔵、デジタル 化された写真のサムネイルが、検索結果につい ています。小川一眞について、図書が48タイト ル、論文が121、そのうち査読付き雑誌に掲載 された論文が89あることもわかります。

さらにイェンチン図書館では以下の資料が多数みられます。明治期の錦絵は、日清・日露戦争をはじめ時事問題を扱ったものが多数。また、着物や、漆器、陶器のひな形見本帳や、「意匠」図案集、刀のつばや鎧のデザイン集などです。それらの多くは、色刷り木版で、古谷紅燐などの当時の代表的意匠作家がかかわっています。これらの多くが、1905年に日本旅行をしたハーバードの卒業生からの寄贈です。こうしたイェンチン図書館で所蔵する近代の日本のデザイン資料約80冊のデジタル化が現在進行中です。

さて、こうしたデジタル化された資料の活用 法ですが、ハーバードの場合公開しているもの は2014月から原則自由に利用してよいことにな っています。やや長いのですがこの原則を紹介 させていただきます。「ハーバードの図書館の 使命は、知識の創造、応用、保存、そして浸透 に積極的にかかわることにより、学術と教育の 進展をはかることにある。研究、教育、学習、 創造的活動のためのデジタル化された内容の利 用と再利用は、この使命を支えている。デジタ ル化された内容は ハーバード・アーカイブと図 書館のコレクションへの、学生とファカルティ のアクセスの度合いを高める、と同時にハーバ ードの図書館が有する知的資源を世界と共有す る方法を提供する。デジタルコンテンツの創造 的再利用を育成するために、ハーバード図書館 は、著作権の無い図書館蔵書のデジタルコンテ ンツで公開されているものを、他の権利制限の 無い限り、自由に利用することを許可する。」5

これはハーバードの学術コミュニケーション所 長(Director of the Office for Scholarly Communication)で Open Access を推進してい る Peter Suber 氏の理念がよく反映されている と思います。

大量の蔵書をデジタル化した国立国会図書館は、基本的に著作権の無い資料のデジタルコンテンツの利用は、ほぼハーバードと同様の方針を取っています。理想を言えば、世界中の学術機関(図書館、美術館、アーカイブ)で同様な原則を採択してほしいものだと思います。少なくともその理念を共有し、所蔵資料のデジタル化と公開を進めて欲しいと希望します。

さて、日本美術資料の画像を研究論文や本に 掲載して出版するには、従来かなりの手間と費 用がかかりました。NCC では Image Use Protocol というプログラム 6を 2009 年に立ち上 げ、画像利用のためのワークショップを数回開 催し、それをもとにリソースガイドを作成し、 NCC のサイトで公開しています。 当時からアー ト・ヒストリーや歴史、文学の研究者は、画像 を本や論文に掲載するのに、様々な困難に直面 していたので、このプログラムはかなり歓迎さ れました。現在は多くの日本の美術館資料の画 像入手は DNP アートコミュニケーションズと いう会社が窓口となって、入手情報が整理され た点は以前よりずっと良いのですが、率直に申 しますと営利的側面が見えて、懸念が残ります。 特に公共機関は国会図書館方式に近づいて欲し いです。

さて、随分ながく北米、特にハーバードの事 例を紹介、解説してきましたが、冒頭にも言い ましたように、海外の日本研究者、特にアー ト・ヒストリーの研究者がどのように研究を進 め、資料を探し、利用、活用しているかの理解 の一助になればと心から願います。と同時に、 そこからぜひ想像力を働かせて、彼らのニーズ をいろいろな側面から推し計っていただければ 幸いです。ある意味、彼らのニーズはユニバー サルで、日本人の研究者にとっても大いに有益 です。美術館の所蔵資料の目録が国会図書館サ ーチのようなポータルにつながって、文献資料 とともに見つかりやすくなることは、すべての 研究者にプラスです。所蔵品のデジタル化を大 いに進め、目録レコードにリンクされていれば、 研究の生産性も大いに上がり、面白い発見が生

まれるかもしれません。そして、研究者の学術 出版物への画像提供コストを極力低くすること は、日本アートに対する理解を深めるのに何よ りの貢献だと思います。

ご清聴ありがとうございました。

nepage About the NCC

Browse Guides by Autho

Digital Scholarship om Japanese Si Innovations and Challenges, Noven 7, 2015. Please consult the Schedu

視聴覚資料へのアプローチ: 北米日本研究図書館の現状と課題

ハーバード・イェンチン図書館 日本語資料担当ライブラリアン NCC (北米日本研究資料調整協議会)議長

マクヴェイ山田久仁子

Table of Contents

- 1. 北米大学図書館の役割
- 2. 日本美術研究及び日本研究の動向、北米を中心に
- 3. 多岐にわたる日本美術の範疇
- 4. ハーバードでの研究例および資料活用環境
- 5. 提言: 資料所蔵情報の共有と公開及びMLA (or GLAM) の連携
- 6. そこにある未来

米国の日本研究 (2012年国際交流基金)

YOUR GUIDE TO JAPANESE

North American Coordinating Council on Japanese Library Resources (NCC):

structional Materials, Training, and Information Lit

LIBRARY AND INFORMATION RESOURCES

- 全大学数: 2774
- 学部生レベルの日本研究専攻過程のある大学: 361
- 日本に関する授業の総数:2786
- 日本語資料所蔵の大学図書館数:67
- 日本語蔵書4万冊以上の図書館数:31

ハーバード・イェンチン図書館

(As of June 2015)

• Chinese Collection: 852,729 volumes

Japanese Collection: 354,466 volumes

Korean Collection: 185,939 volumes

Western languages Collection: 53,735 volumes

Vietnamese Collection: 25,867 volumes

• Tibetan, Manchu, Mongolian, Naxi

• Monograph total: 1,480,950 volumes

• Serials: 11,305 titles

• Photographs 写真: 70,000 images

• Rubbings 拓本: 1,000 sheets

• Prints 木版画: 500 sheets

• Scrolls 掛軸: 450 rolls

ハーバード美術図書館

Rubel Asiatic Collection in Fine Arts Library

• 日本語図書:4755タイトル

• 日本語雑誌:88タイトル

• 英語図書: 2218タイトル

• 英語雑誌:34タイトル

• 複製絵巻:33軸

• 拓本: 2602枚

• 幻燈スライドhand-colored lantern slides: 500

• 写真多数

6

5

北米大学図書館の使命

- 所属する大学の教育と研究を支援する
 - コレクション構築(媒体を問わず)
 - コレクションの保存
 - ディスカバリーとアクセスの整備と確保
 - 所蔵コレクションの電子化と公開
 - レファレンス、
 - 機関レポジトリーの管理と運営
 - オープン・アクセスの推進



Subclass TR

Subclass NA

Subclass NB

Subclass NC

Subclass ND

Subclass NE

Subclass NK

Subclass NX

TR1-1050 TR250-265 Cameras TR287-500 Photographic processing. Darkroom technique TR504-508 Transparencies. Diapositives TR510-545 Color photography TR550-581 Studio and laboratory TR590-620 Lighting TR624-835 Applied photography Including artistic, commercial, medical photograp photocopying processes Cinematography. Motion picture TR845-899 TR925-1050 Photomechanical processes

LIBRARY OF CONGRESS CLASSIFICATION OUTLINE

CLASS N - FINE ARTS

(Click each subclass for details)

Architecture

Drawing. Design. Illustration

Scuipture

Painting

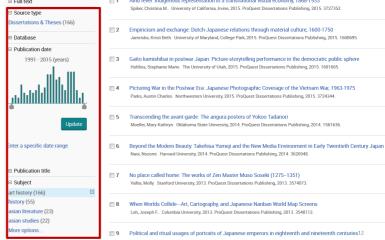
Print media

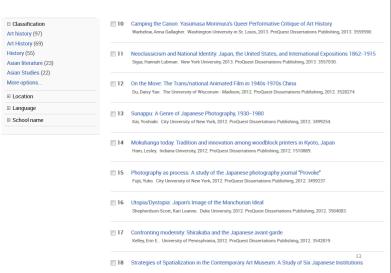
Decorative arts

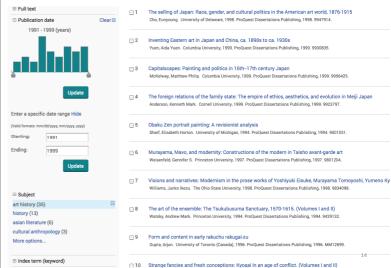
Arts in general

Evolving and broadening discipline

- 日本に関する博士・修士論文数:3023 (1890-2015)
- Arts が主題に含まれる博士・修士論文: 659 (1932-2015)
- 日本美術史の博士・修士論文数: 166 (1991-2015)
- アイヌ、視覚文化、写真、日蘭関係、物の文化、
- Ainu, Photography, Visual Culture, Material Culture, Dutch-Japanese relations, kamishibai, Vietnam War, Avant-garde, Yokoo Tadanori, Takehisa Yumeji, Muso Soseki, Zen, Nanban World map, cartography, portrait of emperors, Morishita Yasumasa, queer critique, International Expositions, Animation film, mokuhanga, "Provoke," Manchuria, utopia, distopia, "Shirakaba," "Nise Murasaki Inaka Genji," Honen picture scroll.







Subject-Art History: 166

- History: 55
- Asian Literature: 23
- Asian Studies: 22
- Architecture: 11
- Women Studies: 9
- Biographies: 8
- Cultural Anthropology: 8
- Religious History: 8
- Religion: 7
- Art Education: 6
- Comparative Literature: 4
- Fine Arts: 4
- Theater: 4

- Design: 3
- Film Studies: 3
- Motion Pictures: 3
- American History: 3
- Art Criticism: 3
- Dance: 2
- Folklore: 2
- Interior Design: 2
- Language Arts: 2
- Performing Arts: 2
- Modern History: 2
- Philosophy: 2

研究成果 (Japan-Arts)

2010s 論文:155 : 図書12

- Touching Japanese popular culture: from flows to contact for ethnographic analysis [explores the idea of touch as a means to think about Japanese popular culture in a transnational perspective]
- By: Condry, Ian
- Journal: Japanese Studies 31, no.1 (May 2011) p. 11-22
- Published in Abingdon, Oxon, England ISSN: 1037-1397
- Keywords: hip-hop musicians; Utamaru; anime; Naoshime 'art island'
- Subjects: Japan -- Anthropology & Sociology
- Japan -- Arts

- Artistic reproduction and the cultivation of identities of mastery in Ise Jingu's Shikinen Sengū (rites of renewal)
- By: Bernard, Rosemarie
- Journal: Waseda Global Forum no.10 (Mar 2014) p. 337-346
- Published in Tokyo ISSN: 1349-7766
- Keywords: perfection and perfectionism
- Subjects: Japan -- Arts
- Japan -- Philosophy & Religion -- Shinto
- Japan -- Anthropology & Sociology --Social Customs

「日本美術全集」第19巻『拡張する戦後美術』

椹木野衣氏「現代美術や、印刷および複製技術の進展と普及によって 飛躍的に流布した写真、デザインに加え、純粋な美術としてとらえられ てこなかったマンガや特撮美術も、わが国ならではの戦後美術を代表 する表現として、進んで取り上げた」



『日本美術全集19』ケース表



『日本美術全集19』ケース裏

「弁慶物語」(『新日本古典文学大系』55巻所収)

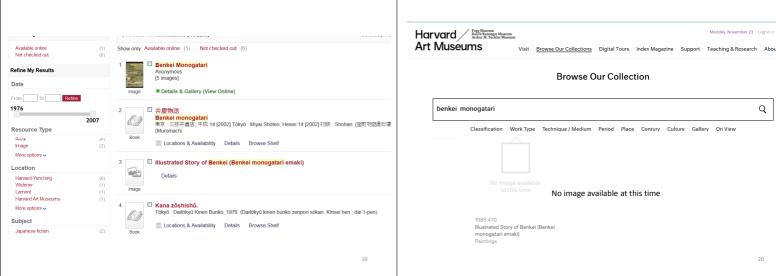
チェスター・ビーティ所蔵の絵巻をもとに翻刻、未所蔵の部分天理図書館と京都大学図書館の別系統の絵巻で補う。ハーバード美術館所蔵の絵巻が、CBLの絵巻の欠落部ではないか?



rigure 8. Benkei and Yoshitsune fight. Musashibō e-engi (The Tale of Musashibō benkei), scroll J 1117.2, image 80. Courtesy of the Chester Beatty Library, Dublin.

Photographs © The Trustees of the Chester Beatty Library, Dublin.

18



Title: Benkei Monogatari Author / Creator: Description: Repository: Chester Beatty Library, Dublin, Ireland HOLLIS Number: olywork262677 Permalink: http://id.lib.harvard.edu/via/olvwork262677/catalog Source: HVD VIA

5 images (Click on an image to enlarge and view more information)



Benkei jumping into Kamo River

Details

Saemon trying to behead Benkei







Benkei crossing swords with

Home > Copyright and Permissions for Visual Image Records

Copyright and Permissions for Visual Image Records

Q

22

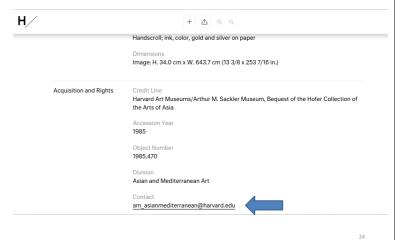
The material in this collection is owned or held by the Harvard Library. Some of the images, text and other content (collectively, the "Content") is protected by copyright law. In some cases, the copyright is owned by other parties, and Harvard is making the Content available to you under license or under the fair use doctrine.

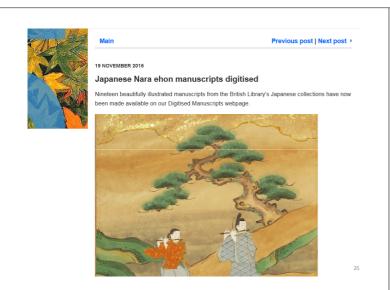
The Content is provided for your personal, noncommercial teaching and research use. You may not copy, publish, post, distribute, display, perform, or otherwise make available any of the Content protected by copyright, except as may be permitted under fair use or another copyright law exemption. If you wish to make any such use of the Content, you must obtain permission from the copyright holder, which may be Harvard or another party. Please contact the appropriate repository.

Some of the Content may be subject to other restrictions - for example, those imposed by a license agreement. You must comply with any other restrictions and terms of use that are identified in connection with particular

In accessing the system, you agree to use the Content only in accordance with copyright law and any other identified restrictions, and you assume all liability for any copyright infringement caused by your use. Some information on copyright law and fair use for members of the Harvard community can be found at: http://ogc.harvard.edu/pages/copyright-and-fair-use

Title: Illustrated Story of Benkei (Benkei monogatari emaki) Publication info: Place of production: Japan Description: Materials/Techniques: Handscroll; ink, color, gold and silver on paper Dimensions: Image: H. 34.0 cm x W. 643.7 cm (13 3/8 x 253 7/16 in.) Credit Line: Harvard Art Museums/Arthur M. Sackler Museum, Bequest of the Hofer Collection of the Arts of Asia Subject: Paintings Form / Genre: Paintings handscrol Culture: Japanese Style / Period: Edo period, Early, 1615-1704 Identifier: Object Number 1985 470 Rights: © President and Fellows of Harvard College Repository: Harvard Art Museums HOLLIS Number: HUAM211422 Creation Date: Early Edo period, 17th century Permalink: http://id.lib.harvard.edu/via/HUAM211422/catalog Source: HVD VIA Slides and Photographs Available (Not Digitized) 23







Rare Book School

Ellis Tinios

I-85. Japanese Illustrated Books, 1615-1868

The success of these book illustrations depended upon the close collaboration of artists, copyists, block cutters and printers under the supervision of publishers responsive to the demands of the market.

I-90. The Art of the Book in Edo and Meiji Japan, 1615–1912

The illustrated woodblock printed books produced in Japan in the Edo and Meiji periods represent a remarkable achievement in terms of their technical perfection, broad range of styles and subject matter, and their beauty. No comparable sustained tradition of artistically significant printed illustrated books existed in China or the West.

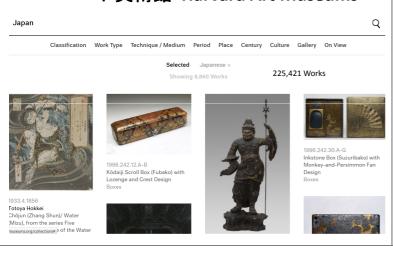
I-95. Hokusai & Book Illustration

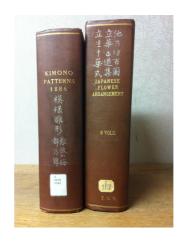
Books figured significantly in the formation of the reputation of Katsushika Hokusai (1760–1849) among his contemporaries and subsequently in Europe and America. He provided illustrations for over 260 titles, encompassing novels, anthologies of Japanese and Chinese poetry, erotica, warrior tales, bilingual editions of Chinese classics, gazetteers, copybooks for aspiring artists, pattern books for artisans, model letter books, dance manuals and picture anthologies

27



ハーバード美術館 Harvard Art Museums

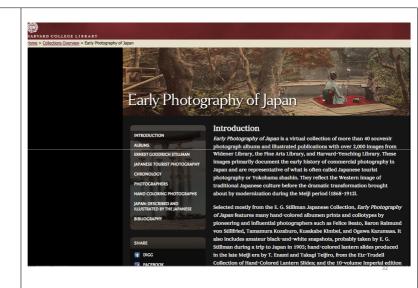




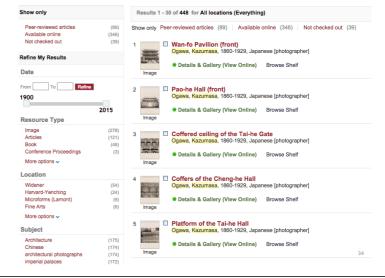






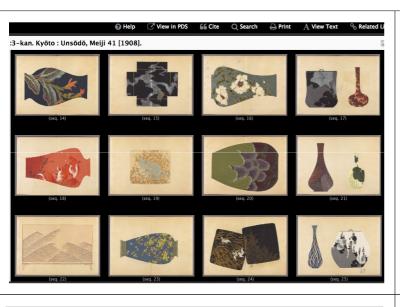














Home » Programs » Support Of Open Initiatives

Harvard Library Policy on Access to Digital Reproductions c Works in the Public Domain

ADOPTED SEPTEMBER 30, 2014

General principle

The mission of the Harvard Library is to advance scholarship and teaching by committing itself to the creation, application, preservation, and dissemination of knowledge. The use and reuse of digitized content for research, teaching, learning, and creative activities supports that mission. Digitized content enhances access for students and faculty to collections in Harvard's archives and libraries, and it provides a way for the Harvard Library to share its intellectual wealth with the rest of the world. In order to foster creative reuse of digitized content, Harvard Library allows free use of openly available digital reproductions of items from its collections that are not under copyright, except where other rights or restrictions apply.

Questions?

Read the policy FAQ for help at the policy to your project. You may also direct questions

OSC or a Copyright First Repon your community.

国立国会図書館ウェブサイトからのコンテンツの転載について

国立国会図書館ウェブサイトからコンテンツの転載(画像、文書、記事、データ等の復劇、翻劇、掲載、放映又は展示等)を行う場合には、転載依頼フォームにより、あらかじ め国立国会図書館にお申込みください。状況により回答までに日数がかかる場合もございますので、余裕を持って申請していただきますよう、お願い申し上げます。 不明な点は、webrepro@ndl.go.jpまでお問い合わせください。

転載依頼フォーム

転載に係る条件は次のとおりです。

- 使用した画面が国立国会図書館ウェブサイトから転載したものであることを明示すること。
 使用した画面を使用する目的以外の目的に使用しないこと。
- なお、ご依頼の内容によっては、ご希望に添いかねる場合もございますので、あらかじめご了承ください。

コンテンツ(国像)は、①者作権保護期間満了のもの、②者作権者の許諾を得ているもの、③文化庁長官裁定のもの、3つがあります。このうち、次に掲げるコンテンツについては、転載統約オティムにある計込は不要です。ただし、国像以外の説明文の利用や電子展示会の一部又は全部の構成を再現するような利用については、中込が必要となりますのでは全化さい。

(1) 「国立国会図書館デジタルコレクション」または「近代デジタルライブラリー」に掲載したデジタル化資料のうち、以下の手順によって著作権保護期間満了であることが確認できるもの。





